

漁業の概要

東京湾のまき網漁業は、東京湾北部(市川市、船橋市)や富津市で営まれており、かつてはイワシを多く水揚げしていましたが、現在は、都道府県別で水揚量が全国1位(平成30年)の、スズキとコノシロを主な対象として操業を行っています。

船橋市では、千葉ブランド水産物にも認定されているスズキを、旬となる夏場を中心に夜間に操業し、また、スズキが産卵盛期となる冬場(2月)は資源管理のために自主的に休漁しています。

それ以外の秋から春はコノシロを狙って日中に操業を行います。これらの魚種以外にサバ類、タチウオ、サヨリ、トラフグなどが漁獲されています。

漁法としては網船2隻の2そうまきで行っています。



まき網漁業の操業(夜間)

漁業収入モデル (乗組員として新規就業時)

月給	20~25万円+歩合
賞与	有り(経営体により異なる)
備考	試用期間は月給が異なる場合有り

※漁師.jp求人情報及び漁業就業支援フェア資料より引用

※年、資源状況等によって変動することがあります。

年間操業計画

対象魚種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
スズキ		休漁期間			←	←	←	←	←	←		
コノシロ	←		←	←							←	←

1日の操業スケジュール例

▼夜間操業(5月~10月)

19:30	集合
20:00	出港
20:00 ~ 8:00	操業(移動時適宜休憩等)
8:00 ~ 10:00	水揚げ作業

▼日中操業(10月~翌4月)

5:30	集合
6:00	出港
6:00 ~ 16:00	操業(移動時適宜休憩等)
16:00 ~ 17:00	水揚げ作業

就業と漁労作業

東京湾のまき網漁業は網船2隻による2そうまきで行っています。網船1隻に6~8人が乗り込み、網が繋がっているため2隻が並走して航行します。

ソナー、魚探で魚群を探し、当たりを付けると目印のブイを投入し、ブイを囲むように2隻の網で魚群を囲みます。船外機船で網なりを調節しながら、漁網を絞り込んで、引き揚げていき、ある程度網を絞り上げたところで、運搬船を後ろに横づけして、運搬船の甲板上に大ダモで魚をすくい入れた後、皆で手分けして選別を行います。